

地域資源融合型パークマネジメントは、地域の暮らしを豊かにする

Park Management with the Local Resources can Enriches the Quality of Life in Local Communities

富永 一夫 Kazuo TOMINAGA

(特非) エヌピーオー・フュージョン長池 会長（創業者）

1. はじめに

(特非) エヌピーオー・フュージョン長池（以下、「NPO フュージョン長池」）は、1999年12月に設立、事業目的は「暮らしの支援事業」である。地域で豊かに暮らし、みんなで幸せになるために、下記事業概念図（図-1）のサークル（つなぎ役）に徹してきた。その結果、2001年度都市景観大賞「美しいまちなみ賞」で国土交通大臣表彰を受賞、多摩ニュータウンでの住宅問題を考えて、①住宅管理（マンション管理）支援事業、②住まいづくり（コーポラティブ住宅）支援事業にも力を入れた。インターネット時代の地域情報化のために行った、高速インターネット（ADSL）普及支援事業は、2001年度総務省関東総合通信局長表彰を受賞している。地域活動でプロデューサー兼コーディネーターの役割を果たした成果である。その後、2001年7月から長池公園自然館の業務受託、2006年度から八王子市長池公園の指定管理者にも選ばれ、パークマネジメントの道を進むことになり、2008年からは、国土交通大学の「公園・緑地研修」の講師を依頼された。2017年度10回目のタイトルは、「NPO が実践する地域資源融合型パークマネジメント」である。2012年には緑の都市賞（国土交通大臣表彰）を受賞、そして、子どもたちのために多摩ニュータウンをふるさとにしようとした我々の活動は、2016年度の総務省ふるさとづくり大賞・団体賞（総務大臣表彰）を受賞するに至ったのである。



図-1 NPO フュージョン長池の事業概念図

本年、2017年4月から5年間、再び八王子市都市公園指定管理者：ひとまちみどり由木（構成団体名）として、八王子市東由木地区公園（長池公園+80公園・緑地、約77ha）の指定管理者に選任された。その代表団体としてNPO フュージョン長池は、11年間培ってきた地域資源融合型公園経営をさらに進化させる決意である。

2. 地域みんなで緑地管理

造園会社とNPOの役割分担で緑地管理：専門家である地域の造園会社2社は、NPO フュージョン長池の緑地管理スタッフでは困難である高木剪定・危険木の伐倒・広大な面積や斜面地の草刈り等を担ってくれる。

地域に居住するシルバー世代の男性たちで緑地管理：八王子市東部地域（多摩ニュータウン八王子市域）には、退職後に公園で“生きがいとして働きたい”方々がいて、緑地管理・施設修繕のパートで1日4時間、週に2~3日を働いてくれる。この男性たちが園路際や遊び場の草刈りをすると、地域で暮らす人の空気感を体現し“何となく、心地よい”剪定や草刈りの品質を提供してくれる。

地域に居住する自然が大好きな若者たちで緑地管理：里山の動植物や環境教育が大好きな若者たちも、シルバー世代の男性たちと平日の午前中（半日）を中心に緑地管理に汗を流している。そうすると、絶滅危惧種を守るための選別除草や植生調査も同時に実施できる。この自然にも人にも優しい若者たちがチームリーダーで、シルバー世代の男性たちが自分の孫を見守るような眼でニコニコしながらチームメンバーとして働いている姿は、誠に微笑ましい。時には、地域のおじいちゃんが地域の孫に語るように長い人生経験から溢れる経験知を語る姿は、古き良き時代の日本の農村風景を彷彿とさせる。人生を生きる知恵や技も、地域の孫たちは学んでいる。

多様なボランティアが緑地管理を支援：

・一人でボランティア

地域には人間関係が得意でなく、一人でボランティアしたい方々がいる。指定管理者が「公園サポーター制度を創

設」し、ガーデニングや里山管理でお手伝い頂いている。

・八王子市公園アドプト団体としてボランティア

八王子市公園課には5人以上でボランティア団体登録制度がある。八王子市東由木地区には22団体あり、その多くが町会・自治会の有志である。公園のゴミ拾い・落ち葉清掃等で活躍。中には、長池公園の公園アドプト団体のように、田んぼ・畑・炭焼きから雑木林の間伐等まで頑張ってくれる団体もある。

・里山保全隊としてボランティア

組織管理はやりたくないが、一人では寂しいと感じる方々にも「里山保全隊制度」を指定管理者が構成し、数名の方々がNPOのスタッフと一緒にボランティアしている。

・企業ボランティア

地元金融機関の若手スタッフや長池公園の隣にある企業のグラウンドで練習しているアメフトチーム等が、年数回ボランティアをしてくれることも力強い。

3. 長池公園自然館（以下、自然館）の管理・運営

内勤スタッフは、地域の女性たちが主役：スタッフの若者たちにも、シルバー世代の男性たちにも、“ゼロ才から100才の来園者”にも大変に優しく親切な対応をしてくれる。会議室等の貸し出し、来園・来館者への道案内、“いま・ここの公園魅力情報”，HPや業務日報の作成，看板・チラシやポスターのデザイン，要望・苦情の電話受付等々，マルチに仕事をしてくれる。地域の女性たちには，“豊かな精神を育む偉大な母性”がある。

午後は自然館で内勤の若者たち：午前中は緑地管理をしている若者たちも、午後は内勤である。幼稚園・保育園から求められる公園案内，学童保育所の子どもたちと樹名板等の作成，小学校の田んぼづくりやバードウォッチングの支援，中学校の職場体験の支援，大学との共同研究，行政への四半期報告書作成，環境団体との協働と多忙である。

自然館内の売店に多様な人たちが出品：福祉団体10団体のクッキーや木工製品の販売支援を行うと共に，スタッフが作成した長池公園の「植物目録」や「野鳥図録」等のガイドブック，絵葉書やジブリグッズも販売している。

展示品は，寄贈品が主力：タヌキのはく製や昆虫の標本等から図書コーナーに並んでいる書籍も個人からの寄贈品，「平成狸合戦ぽんぽこ」の背景画は，スタジオジブリからの寄贈品である。絵本コーナーの絵本は，近隣保育園から

定期的に貸し出してもらっている。今や自然館は，地域の小さな博物館兼コミュニティ施設のようなものである。

4. 公園施設の修繕

シルバー世代の男性たちは，午後は修繕：元水道工事会社を経営していた男性は，孫のような若者に自分の水道工事の技を伝授してくれている。このお陰で，若手スタッフが，近い将来水道工事の免許を取得したいと言っている。元ゼネコンの男性は，段取り8割・現場2割と言いながら園路補修からパーゴラの修理等を若手スタッフの前で手本を見せ，作業日報の作成までしてくれる。この日報が地域の公園の修繕の歴史になると言っていて楽しんでいる。

公園灯の修繕も地元の電気工事会社が良い：2017年8月に22回目となる“長池ぼんぼこ祭り”の電気工事を第1回からやっているこの会社は，社員が帰り道に“消えている公園灯”を発見し，修繕してくれる。

福祉団体も地域の宝：自然館のハウスクリーニングや公園清掃では，障害者とジョブコーチが楽しそうに働いてくれる情景も美しい。来園者が「ありがとうね！」と言ってくれると嬉しそうである。

5. 業務の合理化にスマホのアプリを独自開発

地域のIT技術者が業務の合理化で活躍：「スマートパークアイ」というアプリを独自開発した。日々の現場作業をスマホの位置情報と写真機能を使って送信すると，内勤のスタッフはPCで現場作業の様子を確認出来るシステムである。データはクラウドサーバーに保存され，行政への報告書やHP作成時の写真使用にも貢献している。

6. まとめ

行政から支出される指定管理料を地域の“ヒト資源”に山分けするように，公園の経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）で地域に貢献すると，地域が社会的・経済的に豊かになる。豊かになった地域（公園外）の経営資源は，感謝の心で公園にボランティアや寄贈品・寄付金等を戻してくれる。地域資源融合型パークマネジメントにお互い様の心が宿るとき，地域に“感謝と感謝の循環”をもたらしようである。